

平成九年三月

蟹江町歴史民俗資料館

# 年報

第十七冊

# 目次

一、「沿革誌」より	1
二、事業概要	2
三、資料の収集・保管	3
四、展示	10
五、調査研究	14
六、情報提供	15
七、教育普及	16
八、庶務報告	71
九、文化財保護	72

# 蟹江町歴史民俗資料館

## 特別展示

太平洋戦争と



戦後五十年を  
よりかえる

期日：7月25日(火)から8月27日(日)まで

場所：蟹江町歴史民俗資料館 1階 企画展示室  
蟹江町大字今字蟹江浦23 蟹江町産業文化会館内(05679)5-3812

主催：蟹江町歴史民俗資料館



文化財登録シールマーク 文化財を守ろう

## 1 はじめに ー特別展開催にあたってー

昭和20年8月15日太平洋戦争が終結しました。あの日からちょうど50年を経過しましたが、各地では記念の事業が行われ、今一度戦後50年を考える時期をむかえています。

当町でも、この戦争では多くの方が、戦地または徴用、学徒動員等で不慮の死を遂げられました。

終戦直後、生活物資がなく、その日を必死に暮らす人々、ようやく生活に明るさがみえた昭和34年、来襲した伊勢湾台風により、町内全域が水没、堤防の決壊、高潮によってなくなられた人、また家や家財道具をなくした人もいます。

多くの出来事があった激動の時代でした。

また、この50年間は、私たちの生活様式を一変させた時代でもあります。例えば、ラジオからテレビへと、自転車から自動車、和服から洋服、石炭から石油・ガスなどへと変わり、考え方や行動も集団主義から個人主義（個性）へと変化した時代でもあります。

その背景に何があるのか、一口にいえば戦後の民主化にあるといえると思われ  
ます。

今回の展示は、この50年とおして、時代の背景を理解し、過去の歴史に対する関心を高め、理解を深める機会となることを目的に実施したものであります。

平成7年7月 賀江町歴史民俗資料館

## 2 太平洋戦争までのあらし

昭和7（1932）年の5.15事件、昭和11（1936）年の2.26事件をとおして、日本は軍国主義の時代へと突入、満州事変、上海事変、そして昭和12年中国との全面軍事衝突（蘆溝橋事件）により日中戦争がはじまり、次第に戦時色が強まっていくと、これに対応した国内の体制の整備が始まった。

まず、昭和14年、戦時下の災害に備えるため消防団が警防団と改められた。

男たちは、昭和13年に成立した国家動員法に基づき、赤紙（召集令状）一枚で次々と出征。残されたものたちも隣組や国防婦人会を結成して銃後の守りに備えた。また、尋常小学校も国民学校と改称され、児童も戦時下の体制に組み込まれていった。

中国との戦争は、当初日本の意図した短期決戦型から大きくはずれ、中国軍の強力な抵抗にあって、長期戦の泥沼へと足を突っ込むような状況となった。

また、アメリカ、イギリスを始めとした列強が、日本の行動を“侵略行動”とみなし、資源小国日本への輸出にたいして圧力をかけたため、かねてから「南進論」を策定していた軍部の指導のもと、昭和16年になると全面的な戦争は避けられない状況となった。

## 3 戦争と蟹江

昭和16年（1941）12月8日、日本軍のハワイへの攻撃により、「太平洋戦争」が勃発、以後4年間の苦難の時代が開幕した。

前半は戦況めざましく、国内では先勝祝賀会が行われたが、ミッドウェー海戦の惨敗をきっかけに暗転。戦況の悪化に伴い、深刻な物資不足が訪れた。

# 蟹江町歴史民俗資料館特別展示

## 遊びの文化



日時：平成7年10月22日(日)～11月26日(日)

午前9時～午後5時

場所：蟹江町歴史民俗資料館(産業文化会館) 1階 企画展示室  
蟹江町大字今字蟹江浦23 (05679)5-3812

入場：無料

主催：蟹江町歴史民俗資料館



文化財愛護シンボルマーク

文化財を守ろう

11月1日～7日は文化財保護強調週間

## 特別展開催にあたって

休みの日や学校が終わった後に近所の子供どうして集まって遊んだという経験は誰にも共通のものでしょう。

しかし、子供の遊びは、時代や地域によってさまざまです。自然が豊富にあった時代には自然の中で、自然を素材にした遊びが中心だったでしょうし、現代ではほとんどの子供がコンピューターゲームを使って遊んでいます。また、古くから伝承される遊びにも、遊び道具の素材や絵柄などがそのときの世相を反映するものであったり、遊び方もその時代やその地域の子供たちが独自にルールをつくっています。

今回の特別展は、子供達が集って遊ぶ遊びに焦点を当てて、「遊びの文化」をテーマに開催するものです。

なお、特別展開催にあたり、資料および情報提供をいただいた方々にこの場を借りて謹んでお礼申し上げます。

平成7年10月 蟹江町歴史民俗資料館

### ■百人一首、カルタ

百人一首は鎌倉時代につくられ、カルタは16世紀に日本に伝えられました。

もともとは貴族の遊びでしたが今ではお正月などに大人も子供も揃って遊びます。

百人一首は、歌をよんで札をとるという本来の遊び方だけではなく、絵札だけを積み上げて札をめくる坊主めくりという遊び方もします。



## ■将棋

将棋の原型は8世紀に中国から伝わり、安土・桃山時代から江戸時代にかけて現在の遊び方が定着しました。とった駒を再び使用できるのは日本独自のルールようです。将棋も、大人に教えられて通常のルールで楽しむこともありますが、子供どうしでは、はさみ将棋や将棋くずしなどをして遊びます。

## ■玩具について



江戸時代以前は、道具を使った遊びは貴族のものでしたが、江戸時代になると庶民のものとしての玩具作りが発達しました。明治時代にはいると、玩具文化は他の文化と同じく開化し、その後さまざまな玩具が生まれました。

## ■ショーヤ (めんこ)

江戸時代に土面子として登場したのが始まりで、その後木製や金属製のものが生まれ、後に紙製のものとなりました。地面に打ちつけ、相手のめんこを裏返すと相手のめんこを獲得できるというのが基本的な遊び方で、勝つために裏にろうを塗ったりセロハンテープを貼ったりして工夫を凝らしました。そのほかに積み重ねてたりしても遊びます。表にはその時代のヒーローが主に描かれており、絵柄の種類を集めるのも競ったりもしました。

## ■ゴマ (コマ)

コマ遊びはかなり古い時代から親しまれていました。回すだけでなく、ぶつけ合って勝負をしたり、どれだけ小さなものの上に乗ることができるかを競い合ったり、回したゴマを手の上に乗せておにごっこをしたりしました。

